

Title	IDUN V を出すにあたって
Author(s)	岡田, 令子
Citation	IDUN. 1980, 5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95876
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

IDUN V を出すにあたって

前号を仕上げてもまだいくばくも経っていないと思っていましたのに、早くも2年の月日が流れ、今年には IDUN の第5号を出す年になりました。

昨年の夏には、世界音声学会がコペンハーゲン大学で開催されたこともあって、間瀬さんが久方ぶりに“お里帰り”を果たしてまいりました。東京のデンマーク大使館、神戸の通商事務所、コペンハーゲンの銀行などから、デンマークの近況に関する資料を定期的にいただき感謝しておりますが、やはり、ここ数年のデンマーク社会の変動は大きく、自分の目でたしかめたいと誰もが願っていますので、昨年の間瀬氏の訪問は大きな意義がありました。

今年四月の入学者は15名中13名までが女子という、近年にない顔ぶれでした。例年にもれず、今夏にはデンマーク文部省の奨学金を得まして、卒業生一名、在學生一名がそれぞれ民話とグリーンランド語研究のためにデンマークに赴きました。また、わが国の文部省や大阪のロータリー・クラブの援助で数名の者が、コペンハーゲンやオデンセの大学で青春を体験するなど、留学できる学生を当学科から多数出せたのは、よろこばしいことでした。それと共に、これらの在學生や卒業生の成果を期待しております。20名にのぼる来春の卒業予定者も、色々の分野で働くことですが、彼らは目下卒業論文をかかえてがんばっています。

さて、今回この IDUN V で発表いたします論文は四点で、(1)デンマーク語子音—閉鎖音音素—に関するもの、(2)H.C. アナセンの‘豚飼いの少年’にみる文体、(3)13世紀アイスランドの文人スノッリ・ストゥルルソンの生涯の要約、それにデンマーク語で発表します(4)南ユトランド史(第二部)です。私達の日頃の研究の一端がこのような形になりましたが、至らぬ点も多いと反省いたしております。

読者の皆様方の御関心を、御批評、御感想などとしてお聞かせ頂きます

ならば、これからの仕事に生かしてゆけると存じます。今後とも変わらせず、IDUN に御支援いただきますよう一同心から願っております。

1980年11月

大阪外国語大学 デンマーク語学科

主任 岡 田 令 子